

かしわ



聴覚障がい理解研修会を実施して

支援グループ長 倉内 冬樹

聴覚障がい理解研修会は平成 18 年、本校の公開研修会として始まりました。今年度で 14 回目の実施となりました。

研修会の内容については、前半は聴覚障がいに関わる講演会を行い、後半は講演会のテーマや日頃の悩み等を話し合う分科会を行います。講師については、毎年、国立特別支援教育総合研究所の先生をお招きしています。

平成 26 年度は庄司美千代先生「通常級で学ぶ軽度・中等度難聴児の指導・支援について」平成 27 年度は藤本裕人先生「聴覚障がいのある個々の子どもへの合理的配慮について」平成 28 年度は原田公人先生「インクルーシブ教育システムにおける、聴覚障がい児の理解と支援について」平成 29 年度は原田公人先生「聴覚障がい児のためのバリアフリー化や授業のユニバーサル化」平成 30 年度は山本晃先生「難聴児童・生徒の言語能力の実態と支援の具体的方法」、そして今年度は宇野宏之祐先生「聞こえの理解と、聞こえにくさのある児童生徒に対する指導・支援の実践」という主題で講演会を行っていただきました。

参加者は本校の教職員の他、神奈川県内のろう学校教員、横須賀市、鎌倉市等の小中学校支援級、難聴級担任、横須賀市療育相談センター診療科の ST、横須賀市健康福祉センター職員、横浜市立大学付属病院 ST 等横須賀市だけではなく、神奈川県内の聴覚障がいに関わる方々でした。

今年度の聴覚障がい理解研修会は市内小中学校、療育相談センターから 16 名、本校の職員 27 名、合計 43 名の参加となりました。昨年度までは横須賀市の教育研究所を使用していましたが、会場を本校に戻して実施しました。会場については本校の教室の様子、掲示物等も見れて

No. 6 令和元年8月28日 7月末日の小学部の畑

良かったという意見が多くありました。

また、今年度新たに立ち上がった小・中学校の難聴学級の担任の先生、2 年目の中学校の担任の先生に参加していただき本当に良かったと思います。

国立特別支援教育総合研究所の宇野先生の講演会については大変好評でした。アンケートには

「とても理解しやすかった。感性性難聴の疑似体験が心に残りました。難聴の子どもがどれだけ困難を抱えながら生活しているのか、理解しているつもりでしたが、自分が思ってるよりも困難な生活をしていることがわかりました。資料を読み返して指導に活かしたい」等がありました。特に難聴体験が子どもの困難さを理解することにつながったという感想がとても多くありました。

分科会については 5 つのグループに分かれて話し合いました。「それぞれのケース



について丁寧に相談にのっていただいた。それぞれの立場で支援、指導の難しさがあることがわかりとても貴重な情報交換ができました。障がいを認識させること、困り感を自分から伝えさせることの難しさがわかりました。進路について学ぶことができました」等、日頃の指導で悩んでいることを話し合えたこと、情報を共有できたこと等、参加してとても良かったという意見が多くありました。

今後も聴覚に課題を有する子どもに関わる多くの教職員等の理解や指導支援の向上のため、研修会を企画運営していきます。

また、令和 2 年 1 月 26 日(日)に「こどものためのきこえとことばの相談会」を市立総合福祉会館で開催します。相談のある方は、是非、ご参加ください。

私の夏休み

校長 北村 耕一

令和になって初めての夏休み。皆さんはどのように過ごされましたか？今年の夏休みは7/20(土)を含めると39日でした。

私の夏休みは例年とあまり変わりませんでした。7月に秩父に一泊で旅行に行ってきました。秩父は埼玉県にあります。夏の埼玉県と言えば熊谷市を筆頭に「猛暑」というイメージがあります。しかし、私も妻もまだ訪れたことがなかったので、足を運びました。

前日までに台風6号は熱帯低気圧に変わっていましたが、雨は降らず、晴天に恵まれました。しかし、気温は予想通り高く、34℃位でした。

長瀬のライン下りは荒川の水量が多く、迫力がありました。



また、今年度も昨年度に引き続き「読書」を楽しみました。昨年度は「徳川家康」を読み続けていましたが、今年は5月の連休明けから横須賀市に関する本を読んでいました。「横須賀子ども風土記」全3巻、司馬遼太郎氏の「街道をゆく42 三浦半島記」、「古老が語る ふるさとの歴史」全6巻を読み終えました。

60年以上横須賀で生活していますが、知らなかったことがたくさんありました。記憶力が年々衰えているので、今後どれだけ覚えていられるかわかりませんが、市内の寺社や史跡の近くを歩いた時に思い出せたら楽しいだろうと思いました。

本校では重点目標の「2 豊かな心と社会性を育む指導の充実」の中で「④読書活動・新聞等を活用した教育活動を充実させ、豊かな感性と社会性を育成する」ということを掲げて取り組んでいます。

読書の効用については昨年度も触れましたが、東北大学の川島教授の新聞記事を読み、関連する事柄をインターネットで検索してみました。

川島教授は「読書は脳の全身運動」と話され、「子供の創造性の源も、脳の活動領域を調査す

ることで明らかとなった。何かを創造するとき、脳では言語処理の部位と言語知識の格納部位が活発に働いている。つまり頭の中では、それまでに身につけた言葉を使って物事を考えている。子供の創造性を育てるには、新聞を読んだり読書をする必要がある。これは読書量が多い子供ほど、大脳左半球の白質（神経線維が密集している部位）が発達していることから裏付けられる」と述べています。

私は例年と変わらない夏休みを過ごしましたが、子どものように活発ではないにしても、「少しは脳の運動になったかな？」と思っています。

今後も「かしわ」で、今年度着任された教職員の皆さんの「夏休み」を紹介していきます。

私の夏休み

教頭 金子 亜希子

今年の夏は、家族について考えさせられました。元気いっぱい、病気とは無縁と思っていた夫が倒れ、手術に入院、リハビリ。健康であることがどんなにありがたいことか痛感させられました。

北京大学から日本の大学に戻った上の娘は、様々な企業の実習に出かけ、課題に追われ家で話をする時間が殆どありません。高校1年の娘は、1年間のオランダ留学に旅立ちました。出発便がエンジントラブルを起こし、離陸が遅れ、乗り換えのフィンランドで自分で交渉をしなければならないところからのスタートでした。試練を乗り越え、現地校でオランダ語を用いて、どのような生活を送るのか心配でありませんが、無事を祈り見守りたいと思っています。

家族みんなで出かけたのは、毎月恒例の美容室とそのあとの食事、出発前の祖父母との食事会だけでした。いつも一緒にワイワイした生活は暫くお預けです。当たり前家族との生活は、いつもあるものではないことを実感した大忙しの夏休みでした。